

## マスクを外す人が増えて…いま改めて考える、新型コロナの新規感染者数・死亡者数を連日報道した意味

7/31 デイリー新潮



マスクを外す人が増えて… (写真はイメージ) (新潮社)

2020年1月16日、厚生労働省は「神奈川県在住の30代男性から新型コロナウイルスが検出された」と発表。これが日本国内で初めて明らかになった新型コロナの感染例だったわけだが、それから約3年間、新型コロナは感染症予防法の「2類相当」に分類されてきた。

「2類相当」は5月8日から「5類感染症」に変更された。分類表を見ると、1類はエボラ出血熱やペスト、2類は結核やジフテリアといった、重篤な感染症がずらりと記載されている。一方の5類は、アメーバ赤痢や季節性インフルエンザが代表例だ。

これまで新型コロナは2類相当だったため、入院勧告や就業制限の要請など、国や自治体は蔓延防止に強い指導力を発揮することができた。これに対し、5類は基本的に“自己責任”だ。

2類相当から5類になって生じた変化の中に、“本日の新規感染者数・死亡者数”の発表が行われなくなったことがある。厚労省が調査を打ち切ったため、テレビなどのニュースでもそのコーナーが消えた。

「テレビで言及されなくなったことが、そんなに大きな意味を持つのか」と感じる人もいるだろう。だが、SNS上では、“本日の新規感染者数・死亡者数”の報道が消えたことで、マスクの着用率が下がったのではないかという投稿が増えているのだ。担当記者が言う。

「もちろん猛暑の影響でマスクの着用率が下がったとの指摘も多いのですが、『テレビが新規感染者数・死亡者数を報じなくなったから、マスクをしない人が増えた』という主旨

のツイートもかなりの数に上りま  
す。いわゆる“テレビ離れ”が進ん  
でいるにもかかわらず、『テレビニュ  
ースにマスクを外させるほどの影響  
力があるとは思わなかった』と驚く  
声も目につきます」

### 視聴者の怒り

テレビニュースにおける“本日の  
新規感染者数・死亡者数”の報道  
は、以前から一部の視聴者や著名人  
が弊害を指摘していた。

例えば、BPO（放送倫理・番組向上  
機構）は公式サイトに「2020年11月  
に視聴者から寄せられた意見」を掲  
載し、『新型コロナウイルスについて  
報じた番組への意見や、コロナ禍に  
おける番組収録、取材のあり方への  
意見が多く寄せられた』と明らかに  
した。

さらに《意見抜粋》として、10を  
超える意見を紹介。その1つに《感  
染抑制や罹患者の重症化防止のため  
の情報を視聴者に伝えることが放送  
局の役割だと思うが、ワイドショー  
などは、ただ騒いでいるだけにしか  
思えない》という手厳しいものがある。

「意見を要約すると、PCR検査による陽性者は無症状患者も含まれているはずなので、一  
律に“感染者”と報じるのはおかしい。インフルエンザの流行は淡々と伝えているにもか  
かわらず、新型コロナは感染者数の増加を不必要に煽る報道が多く、社会全体を不安に陥  
れている、という内容です」（同・記者）

2022年6月、中日スポーツ（電子版）は「マスクや感染者数報道『スパッと止めま  
しょう。みんな気が楽になる』 西川貴教の提言に賛同集まる 『ド正論』『もっと言って  
欲しい』」との記事を配信した。

### 人数を伝えるだけのテレビ

歌手の西川貴教（52）が、情報番組「スッキリ」（日本テレビ系列・2006～2023年）に  
出演し、“本日の新規感染者数・死亡者数”に違和感を持っていると語ったのだ。

「この日、番組では、外国人観光客の受け入れが2年ぶりに再開されたことを紹介しまし  
た。コメンテーターとして出演した西川さんは『だったら感染者数なんかも発表する方向  
を少し……』と語尾を濁しつつ、ニュース番組の“本日の新規感染者数・死亡者数”の報  
道に異議を唱えたのです。さらに西川さんは『マスクの外し時も見失っている』とも指摘

The image shows a tweet from the account @Kanboukanssen. The text of the tweet reads: '5月8日に新型コロナが5類感染症になりました。感染症法上の位置づけが変わっても、ウイルスの特徴が変わるものではありません。換気、手洗い・手指消毒、マスク着用などの対策は引き続き有効です。詳しくはこちら corona.go.jp/news/news\_2023\_...' Below the text is a graphic with two smiling pink hearts holding hands, with the text '感染対策は 個人の判断を尊重' (Infection countermeasures are respecting individual judgment). At the bottom of the tweet, it says '午前7:00・2023年6月14日・4.3万 件の表示'.

しました。この発言を中日スポーツが電子版で取り上げ、ネット上では《「めっちゃ正論」「言いたい事言ってくれてました」「素晴らしい」と賛意を示す意見が多かったと伝えました」

産経新聞は昨年11月9日の朝刊に「【メディア ZOOM】コロナ報道 識者と振り返る(上)」の記事を掲載。テレビニュースが連日のように《今日、新たに確認された感染者数は、過去最多となりました》と報じたことの是非を、リスクコミュニケーションの専門家・西澤真理子氏に訊いた。

《「数を伝えるだけではなく、心配すべき事態なのか、そうではないのか。どう行動すべきか。そこまで伝えることが本来求められていた役割だった」と西澤さん。そこまで伝えるのがリスクコミュニケーションであり、着地点のない不安は、社会に弊害も生み出す》

### 専門家と素人の違い

2類から5類に変更されたことで、“本日の新規感染者数・死亡者数”の報道はなくなった。改めて西澤氏に取材を依頼し、“人数”を報じ続けたテレビニュースの問題点を指摘してもらった。

「もし、がん告知の場面で、担当医が『あなたはステージ1です』としか口にせず、後は説明を一切しないとしたらどうでしょう。私たちは『これからどうしたらいいんですか?』と質問するはずです。テレビニュースが毎日報じていた“本日の新規感染者数・死亡者数”は、がんのステージしか伝えないという不完全な告知と同じレベルの情報しか提供していないため、テレビと視聴者の間にコミュニケーション不全が起きてしまったのです」

数字で表されるデータは、一般的に信頼性が高いと考えられている。だが、その意味を正確に読み取ることができるのは専門家だけという問題がある。

「テレビで『本日、全国で1万人が感染しました』、『本日、全国で5000人が感染しました』としか報じられなくとも、感染症の医師といった専門家なら人数というデータだけで全体的な状況を理解するでしょう。しかし、専門的な知識のない市井の人々は『最近、人数が増えたね』と不安を感じて終わりです。明日、どんな対策をすればいいのかは全く分かりません」(同・西澤氏)

### 欧米と日本の違い

テレビニュースは「1万人が感染しました」と報道する。しかし、どんな対策をしているのかわからない。結果、日本人の多くが「とりあえず、マスクを着けるか」と判断したのだ。

「日本人が長期間、マスクの着用を続けたのは、テレビが“本日の新規感染者数・死亡者数”という数字だけを報じ、具体的な対処法や感染者数の増減をどう受け止めるべきかという解説をしてこなかったことが一因にあるでしょう。何より映像の力は非常に大きいので、視聴者の心理や思考に強い影響を与えます。マスクを着用している映像が繰り返し流れたことによる“刷り込み効果”や、『みんながマスクをしているのなら私もしよう』という“多数派同調バイアス”も大きな影響を与えました」(同・西澤氏)

西澤氏は今月、仕事でドイツに渡った。現地ではドイツ人だけでなく、欧米を中心に様々な国籍の人々が集まっていたが、やはりマスクの着用率は低かったという。

「私が注目したのは、それでもマスクを着けている人々の姿でした。例えば、国際便の機

内で外国人スチュワードの何人かは、乗客に食事を配る際にマスクを着用していました。彼らの仕事内容を考えると理解できます。やはり欧米でマスクの着脱は“個”が決定しているのに対し、日本では“空気”が大きな影響を与えていると痛感しました。またいつか、新しい感染症が日本を襲います。今回のコロナ報道の反省を次に活かさないと、再び同じことが起きてしまうでしょう」(同・西澤氏)

### 全く同じ報道内容

西澤氏が不安を覚えるのが、例えば、猛暑の報道だ。「記録的な猛暑です」とは伝えるが、その背景については触れない。コロナ禍の報道と何も変わっていない。

「視聴者がテレビに何を求めているのかということも大きいのかもしれません。“危機感を煽ってくれるくらいがちょうど良い”という人もいらっしゃるでしょう。とはいえ、新型コロナの新規感染者数だけを報じるのも、今日の全国最高気温だけを報じるのも、どちらも同じ問題が根っこにあるのは言うまでもありません。人間は“科学的なデータ”を示されただけでは動きません。コロナ禍で飛沫感染を避けるにはどうしたらいいか、経済学や気象学などの観点から、地球温暖化の根本原因は何なのか、具体的な情報や解説とセットになることで初めて、データ報道に意味が出てくるのです」(同・西澤氏)